

「心のノート」の活用を通した道徳教育の展開

柴 原 弘 志

1 はじめに

- ◇ ネットワーク・フットワーク・ホームワーク
- ◇ 「生きる力」は「豊かな人間性」の育成と「確かな学力」の定着 及び「健康・体力」の増進
- ◇ 「生きる力」の核となる豊かな道徳性をはぐくむ上で、「心のノート」をどのように生かすか
 - 体験は、道徳性育成の基盤 しかしながら 体験だけでは・・・・
 - 「心のノート」との出会い・「心のノート」による出会い・「心のノート」 de 愛

2 「心のノート」利用・活用上の課題

① 教職員の意識の高揚と指導体制の確立

- 教職員自身も、一人の人間として「心のノート」を開いてみる
- 「心のノート」から得られたものを交流する（校内だけではなく広く）
- 「心のノート」の可能性について共通理解をはかる
- 諸計画において、「心のノート」の位置付けを考える
（ただし、「心のノート」の利用・活用そのものが目的ではない）
- 道徳教育推進上の効果を評価し、利用・活用への取組の改善を図る



教職員の道徳教育に対する認識を高め、指導力を向上させる「心のノート」

② 子どもによる主体的活用の促進

- 1 子どもが、いつでもどこでも何度でも主体的に活用できるような環境をつくる
子どもが、学校であれ、家庭であれ、「心のノート」を開こうとするそのときに、ノートが常に子どもの手元にあるという環境をつくりたい。
- 2 活用についてのオリエンテーションを実施する（子ども自身による重点化が大切）
子どもと「心のノート」との出会いを魅力的に演出したい。
- 3 「心のノート」及び個々のページに対する子どもの受け止めを把握し、生かす
「心のノート」に対する子どもの受け止めこそ生命線である。
- 4 「心のノート」及び個々のページに対する興味関心を喚起する
日常的に「心のノート」が話題になるようにしたい。
- 5 「心のノート」の活用成就感をもたせる
自分の人間としての変容や成長を実感できるようにしたい。
- 6 子どもによる活用を交流させる
交流の機会は多く、方法は多様に考えられる。子どものプライバシーに配慮しながらすすめたい。
- 7 活用の豊かなイメージをもたせる

③ 道徳の時間以外での利用・活用の充実

- 1 学校や家庭の日常生活での利用・活用
- 2 各教科との関連での利用・活用
- 3 特別活動での利用・活用
- 4 総合的な学習の時間での利用・活用
- 5 家庭や地域社会との連携等での利用・活用
- 6 その他（ここがまた有意義かつおもしろい）

④ 家庭・地域との連携の推進

取組の事例

- PTA総会や地域懇談会での「心のノート」の趣旨・内容の説明
- PTA役員会や学級懇談会での「心のノート」の内容についての学習会の実施
- 学校便りや学級通信などによる「心のノート」のページ内容や活用状況の紹介
- 保護者・地域の人々への「心のノート」に関するアンケート調査の実施
- 「心のノート」を用いた道徳の時間への保護者・地域の人々の参観・参加
- 「心のノート」を生かした家庭での話し合いの日の設定
- 地域における諸活動での「心のノート」の利用・活用
- 地域の掲示板に掲示された「心のノート」の拡大版への地域の人々による記入
- 図書館や公民館などの公共施設への配本
- 「心のノート」の保護者・地域の人々への貸し出し・購入斡旋

⑤ 子ども一人一人への配慮（プライバシー等）

世界に一つしかない「心のノート」へのかかわり

3 おわりに

「元気ですか・・・」

道徳教育充実への地平の広がり求めて

「心のノート」をよりよく活用するために

文部科学省「心のノート・活用のために」より抜粋整理

3つの作成の背景

全教育活動における 道徳教育の充実 ◇道徳教育は学校の教育活動全体で取り組むもの ◇子ども自らが道徳性をはぐくん でいくことが求められる	子どもの道徳的成長の窓口 としての内容項目 ◇学習指導要領の内容項目は 子どもが自分を見つめる窓口 ◇子どもが自ら課題や目標を見つけ る見通しをもつためのもの	学校・家庭・地域の共通理解と 連携の推進 ◇規範意識の低下、人間関係の希薄 化、家庭・地域の教育力の低下など ◇教師や保護者等における共通理解 共によりよく生きようとする姿勢
--	---	---

4つの趣旨（基本的な考え）

◆子どもが道徳性を発展 させる窓口となるもの	◆日常生活や全教育活動を 通じて活用するもの	◆教科書や副読本では ないもの	◆学校での多様な 教材開発を促すもの
---------------------------	---------------------------	--------------------	-----------------------

教材としての具体化

3つの特徴（性格）

自学自習ノート ◎子ども一人一人が道徳的価値に ついて興味をもったとき、 自ら学ぶための冊子	生活ノート ◎子どもが自己の生活や体験を振 り返り、記録することのできる 心の成長記録となる冊子	心の架け橋 ◎学校と家庭（及び地域）が心の 教育を話題にし、共に子どもの 心をはぐくむための冊子
--	--	--

活用場面の例（7つの例）

① 学校や家庭の日常生活で…… 休み時間に 朝の時間に 放課後に 家庭での日常で 家庭での自主学習で ※教師の学級経営の補助的な資料としてとしても生かされる	
② 各教科の学習との関連で…… 道徳の内容に関連する学習を通して	
③ 道徳の時間の一部で…… ① 導入の興味付けとして ③ 体験等の交流の際に ⑤ 事前や事後の関連付けとして	② 中心となる資料の補助資料として ④ 終末の考えを整理する手助けとして ⑥ 上記の複数の箇所です
④ 特別活動との関連で…… 各内容、それぞれ活動の特色に応じて	
⑤ 総合的な学習の時間との関連で…… 道徳の内容に関連する学習を通して	
⑥ 学校・家庭・地域連携の場で…… 各種通信や保護者会の中で 子どもと教師・保護者等の共通の話題として 道徳教育の地域公開の機会に ……	
⑦ 様々な交流・その他で…… 子ども同士で 学年間で 学校間で 異世代で ……	⑧ その他

計画等への位置付け

計画的に 生かすために ① 子どもの活用、教師の用い方を共通理解する ② 学校や学級の経営計画などに位置付けを示す ③ 道徳教育の全体計画に役割や用い方を示す ④ 道徳の時間の年間指導計画の一部に位置付ける ※ ただし、子どもの自主的な活用を妨げることにはならない。	
---	--

活用のための留意事項・5

- ◆子どもの日常の自主的な活用を促す……教師が計画的に用いる場合にも、子どもの活用意欲を促すように扱う
- ◆各教科等の特質に即して適切に用いる……教科書や副読本とは異なるものであり、補助的活用が適切な場合が多い
- ◆継続的、発展的に用いるようにする……子どもが続けて用いられるように助言や環境づくりをする
- ◆子どものプライバシーに配慮する……子どもが自分自身を素直に表現できるように配慮する
- ◆保護者や地域の人々の協力を得る……発達段階に応じて子どもへのかかわり方を工夫する

各学校で、すべての子どもが意欲的、効果的に「心のノート」を活用できるようにしていくことが大切

「心のノート」を生かして道徳教育の充実を図る

- 「心のノート」は子どもが日常の中で進んで活用する冊子である。より多くの子どもがこのノートを意欲的に活用するように、見通しをもって用いることが大切になる。
- 教師の手で子どもの気持ちを考慮しないで活用しようとする、子どもの活用意欲は低下する。しかし、教師の効果的な生かし方がないと、なかには、関心を向けられない子どももいるかもしれない。

子どもの活用場面を広げる方法の例

① 日常生活における活用を広げる

- ＜例＞ 1) 朝の話し合いや読書タイムを生かす。 2) 帰りの話し合いに話題にする日をつくる。
3) 週末には持ち帰り家族と話題にする。 4) 週1回、書き込む時間をつくる。 など

② 道徳の時間での生かし方を工夫する

- ＜例＞ ① 学習の問題作り…例えば、イラスト、写真、問題提起文などを用いて主題への関心を高める。
② 補助資料として…例えば、気づきにくい考え方を知るなど、内容を深める題材とする。
③ 体験交流の場で…記入時間を作ったり、記入した内容を交流したりして、自覚を深める。
④ 終末資料として…メッセージや詩、名言などを題材として、学習したことの明確化を図る。
⑤ 事前や事後に…道徳の時間の前後に学習につながる投げかけや発展的な投げかけをする。
※ なお、子どもの実態や扱う内容等により中心的な資料として扱う場合もないとはいえない。

③ 各教科等で「心のノート」を用いる

- ＜例＞ 教科学習：各教科で、内容に関連させて補助資料として取り上げる。例えば年に1～2回ずつ話題にすることで、全体で年間15～20回、ノートに触れることになる。
特別活動：学級活動の内容(2)、学校行事等の事前や事後に用いることができる内容も多い。
総合的な学習の時間：テーマ探しのヒントや発展的な学習への糸口として役立てられる。

④ 指導計画の一部に位置付ける

- 2(中学校では3)年間の見通しをもち、教師の創意工夫が反映できる柔軟な形で計画化する。
＜例＞ ① 道徳教育の全体計画に扱いの方針を明記する ※使用したときの記録を残すことで、学年の引き継ぎに生かされる。
② 道徳の時間の年間指導計画の一部に位置付ける
③ 学級経営案や学級における指導計画に扱いを示す など

⑤ 連携に生かすネットワークをつくる

- ＜例＞ ① 子どもの活用の様子を学級通信で紹介する ② 保護者会でノートを開いて話題にする
③ 公開授業で用いる ④ 地域の掲示板に貼る ⑤ 学校評議員会等で理解を求める など

子どもの一層の活用を促すために留意したいこと

① 子どもが自由に用いる環境を用意する

教師が日常の中で管理、保存し、使うときに子どもに配慮という形では、子どもの自由な活用が促されない。子どもが手にしたいときにいつでも取り出せる環境を用意したい。

② 一人一人が違うノートになるように援助する

授業の中で学習ノートの代わりに用いるだけの繰り返しでは、どの子どもも同じところしか書き込まない。子どもが自由に書き込む機会を充実していくことで、一人一人のノートの内容が個性的になる。

③ 書き込んだものを次に生かすことができるようにする

例えば、記入し終わったからといってそのページが終わったということはない。付け加えたり、見直したり、別の紙を張り込んだりすることも考えられる。

④ 個別への配慮を欠かさない

活用する子どものプライバシーを細心の心配りで配慮することが必要である。また、一人一人の個別の事情、発達段階上の違い等も踏まえて配慮を欠かさない。

⑤ 学校と家庭を往復できるようにする

子ども自身が家でも書き込んだり、家族が目にして一緒に話題にしたりする機会をつくるために、「心のノート」が学校と家庭を往復できるようにする。